

すべての子どもたちにゆきとどいた教育を

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 13 2016年12月5日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

12月1日～2日、道教組梶木書記長と網走教組、高教組網走支部のメンバーが、オホーツク管内の4町で「ゆきとどいた教育をすすめる自治体キャラバン」として教育長と懇談を行いました。

清里町訪問（12月1日）



道教組梶木書記長と網走教組の和田書記長が清里町を訪れ、岸本教育長と懇談しました。

はじめに教育長から「要請されている内容には全く同感です」と見解が述べられました。その後、町の教育条件整備にかかわり、「町内の小規模小学校2校が中心校との統合予定だが、財政面での理由で統合を進めてはいない。子どもの教育にとってどうなのか（集団規模や「切磋琢磨」の経験、複式学級がいいのか等）」という観点で、当事者の意見を尊重しながら検討している」「町費で小6まで35人以下学級をしているが、やはりそれは、国や道の責任でやってほしい」「中学1年生全員にニュージーランド短期研修を実施している。費用は全て町が負担している」「高校は間口を維持するため、隣の小清水町から無料バスを出して生徒を送迎している。入学支度金10万円、部活遠征費、模擬試験代、さらに国立大学進学者には初年度納付金の85万円を無償で支給している」「子どもたちには、年間4～5,000万円のお金をかけている」と話してくれました。

最後に和田書記長から、網走教組が年度初めに行っている「申し入れ書」のとりくみを紹介しました。私たちの「学校長を中心に教職員みんなで子どもたちのために力合わせをしているスタンス」について説明すると、教育長は大きく頷き、ご理解いただけように見受けられました。

斜里町訪問（12月1日）

続いて梶木書記長と和田書記長は斜里町を訪れ、村田教育長、岡田教育部長、鹿野生涯学習課長の3名と懇談しました。

斜里町では、この間、少子化により小学校を統廃合してきましたが、高校は間口維持、さらには将来的に廃校にならないよう苦勞していることが教育長から話されました。

「中心地では、小学校が2校、中学校が1校あり、縦と横の連携にも力を入れている。35人学級のために小・中学校で2人、『学力支援教員』を小学校で2人、中学校で1人、さらに『特別教育支援員』9人を全て町費で雇用している」「中心地から40キロ離れたウトロ地区では、以前からのウトロ小中学校（併置校）が、今年度から知床ウトロ学校（義務教育学校）としてスタートした。教頭2人体制だが、それよりも子どもに直接指導にあたる先生がいる方がいいと思っている。法整備を求めたい」「斜里高校は間口減が続いている。初めて地元高校進学率が50%を切り、危機的だ」とのことでした。

私たちが驚いたのは、「学校力向上予算」として、校長（学校）裁量で運用できる予算が4校に40万円ずつ付けられていることでした。これは、学校力向上のために行う研修や講師への謝礼、そして備品購入など、学校で計画を立て、委員会で認められれば配当される自由度の高い予算でした。

最後に教育長は、斜里高校と斜里中学校にいる全教組合員の活躍を称えていただいたので、こちらも「引き続き彼らをよろしくお願ひします」と申し述べ、懇談を終えました。



小清水町訪問（12月2日）

2日目の午前
は、梶木書記長が
小清水町を訪れ、
渡辺教育長と懇
談しました。

教育長からは、
「平成24年度に
町内の小中学校
の再編をし、校舎
の建て替えやスクールバス7台を運行するなどの
ハード面は整備した。ソフト面では、6人の指導員
で『放課後子ども教室』事業をスタートさせ、子ども
たちのサポートをしている。また、小中連携として、
5・6年生の外国語活動に中学校の英語教師を、
また、小学校で家庭科免許を持っている先生を中学
校の家庭科指導に充てたり、さらには、6年生を中
学校に行かせて学習する体制を導入するなどして、
来年度からスタートする『小中一貫校』に向けて『9
年間で育てる』準備をしている」「2年目となる保
育所園児、小・中学生の給食無償化については、道
内でも先駆けてとりくんできた。1,800～1,900万円
かけている」と話してくれました。

高校については、「唯一の小清水高校は昨年募集
停止となったが、隣の清里町との協力で、多くの生
徒が通わせてもらっている。いったんは町を離れる
子どもたちも、卒業後戻ってきて農業をやっている」

また、国や道の施策については、「いろいろと下
りてくるが、地方には独自の事情があるので、それ
にあわせたやり方や内容を認めてもらいたい。法律
や教育内容が変わろうとも、子どもたちに影響が出
ないように、何が大切かの『軸』がぶれないように
これからも考え実行していきたい」と、自分の町の
子どもの教育に責任を持った力強い言葉が印象的
でした。

美幌町訪問（12月2日）

オホーツクキャラバンの最後は、梶木書記長と和
田書記長、そして高教組網走支部美幌高校分会長の
長谷川さんの3名で、美幌町を訪れました。教育長
や学校教育グループの主幹は緊急会議の対応で不
在でしたので、代わりに学校教育グループ総務担当
主査である片平さんが対応してくださいました。

まず梶木書記長からは、35人学級のため数年前



から町費で教員を雇っていることを知っていたの
で、今年の実態を聞きました。すると、今年は旭小
3・6年、美幌小6年に計3人を充てていることが
わかりました。

次に美幌高校の長谷川さんから、美幌高校のとり
くみについて話すと、片平さんからも「現在4間口
確保に向け、11月から教育長と校長が町外（管外の
阿寒にも）の中学校に生徒集めの『営業』に出てい
る」と話され、「農業科」を残すため、特段の努力
をしているとのことでした。

美幌高校では町内中学生の美幌高校進学率が
50%まで下がっていることを危惧しており、要因に
ついて様々な分析をしていることも、長谷川さんと
片平さんの間で意見交換することができました。1
つは、塾が勧める「北見ブランド」への進学。2つ
は、小清水高校の募集停止による清里高校への進学
の影響。3つは、学校選択に「部活動」を入れていること。4つは、他町で実施している「通学費補助」
の影響。そのような分析のもと、美幌高校では、学
校の魅力づくりに今必死になっていること、そして、
中学校の先生との交流も図りたいとのことでした。

今回を機に、分会と町教委の意見交換や分会と学
校長との意見交換をすすめ、できることにとりく
みたいと長谷川さんは決意を述べていました。

最後に美幌在住の和田書記長からは、網走教組の
「申し入れ書」を説明し、教職員と教育行政の協
力・共同で教育を良くしていきましょうとエールを
送りました。



**今回で、オホーツク管内(3市14町1村)を全て訪問
しました。これで訪問した自治体数は 137 / 179
(76%)になりました。残りは 42 です。**

**さらに今年度中に訪問できるところを追求していきま
す。引き続き、各地の高教組・道教組の対応組織のご
協力をよろしくお願いします。**